

平成15・16年度
市内緊急発掘調査報告書

2005年3月

長野県飯田市教育委員会

平成15・16年度
市内緊急発掘調査報告書

2005年3月

長野県飯田市教育委員会

例 言

1. 本書は長野県飯田市における宅地開発等に伴う平成15・16年度市内遺跡緊急発掘調査報告書である。
2. 調査は、平成15・16年度に国庫補助事業として飯田市（飯田市教育委員会生涯学習課文化財保護係）が実施した。また調査にあたり地権者はじめ多くの方々の協力を得ている。
3. 調査は、平成15年度に箕瀬・水城の2遺跡を、平成16年度に石原古墳・開善寺境内・藪越・富の平の4遺跡を実施した。
4. 本書に掲載した位置図は飯田市都市計画基本図を1/2とし1/5000で使用している。また遺跡全体図は富の平遺跡が1/200でその他は1/100で掲載している。
5. 調査組織
教 育 長 富田泰啓（～平成17年3月） 伊澤宏爾（平成17年3月～）
教 育 次 長 尾曾幹男
生涯学習課長 小林正春
文化財保護係長 吉川 豊
文化財保護係 馬場保之・澁谷恵美子・吉川金利（～平成15年度）・羽生俊郎（～平成15年度）
佐々木行博・下平博行（平成16年度～）・坂井勇雄（平成16年度～）
作 業 員 伊藤孝人・小林定雄・下田美美子・高橋セキ子・松下省三・三浦照夫
6. 本報告書の執筆・編集は、各発掘担当者との協議の上、下平が行い、吉川が校閲した。
7. 本書掲載の関係資料などは飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館で保管している。

目 次

例言	
目次	
平成15・16年度調査位置図	
1 箕瀬遺跡（平成15年度調査）…………… 1	5 藪越遺跡（平成16年度調査）……………11
2 水城遺跡（平成15年度調査）…………… 3	6 富の平遺跡（平成16年度調査）……………13
3 石原古墳（平成16年度調査）…………… 5	報告書抄録
4 開善寺境内遺跡（平成16年度調査）…………… 8	



図1 平成15・16年度調査位置図 (1 : 100,000)

みのせ 1 箕瀬遺跡 (平成15年度調査)

1) 調査の概要

- | | |
|---------|-----------------|
| 1 調査地 | 飯田市箕瀬二丁目2485-1外 |
| 2 調査の要因 | 個人住宅建設 |
| 3 開発面積 | 108㎡ |
| 4 調査期間 | 平成15年7月23日 |
| 5 調査担当者 | 羽生俊郎 吉川金利 |
| 6 遺構 | 土坑(時期不明) 1基 |
| 7 遺物 | なし |

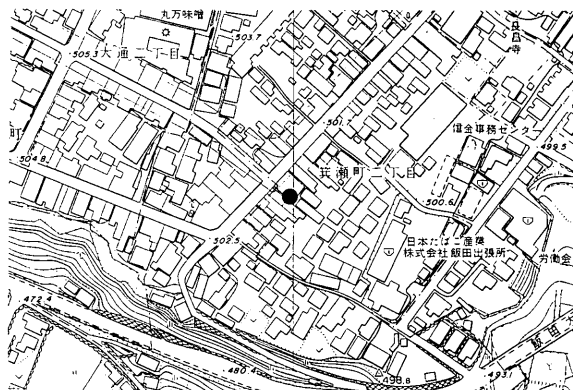


図2 箕瀬遺跡調査位置

2) 遺跡の立地

箕瀬地区は市街地の南端に位置する。飯田市街地は南側を松川に、北側を野底川によって区切られた段丘上にあり、当該遺跡は松川を望む段丘端部に立地している。

3) 経 過

平成15年6月30日付で飯田市箕瀬2-2486-1 増澤高人 他 より土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は箕瀬遺跡内での個人住宅建設であるが、箕瀬遺跡では平成13年度に調査が行われ、縄文時代・平安時代の集落が確認されているものの、計画地周辺では発掘調査等実施されておらず、埋蔵文化財の詳細は不明であった。このため、工事に先立ち試掘調査を実施し、試掘結果に基づいて改めて協議を行うこととした。

7月23日より重機を用いて検出面まで掘削を行い、遺構・遺物の確認を行った。遺構および調査地点の測量は㈱ジャステックに委託実施した。同日中に埋め戻しを実施し、現地作業は終了した。

4) 調査の所見

現地表から90cm前後の造成土・10cmのローム漸移層が堆積し、検出面であるローム層にいたる。平成13年度調査箇所での集落址の延長は確認されず、時期不明の土坑が1基検出されたのみであった。しかし、調査面積が狭いため集落の分布域については今後の課題とすべきである。なお、基礎工事は遺構検出面まで達しないため、本調査は不要とした。

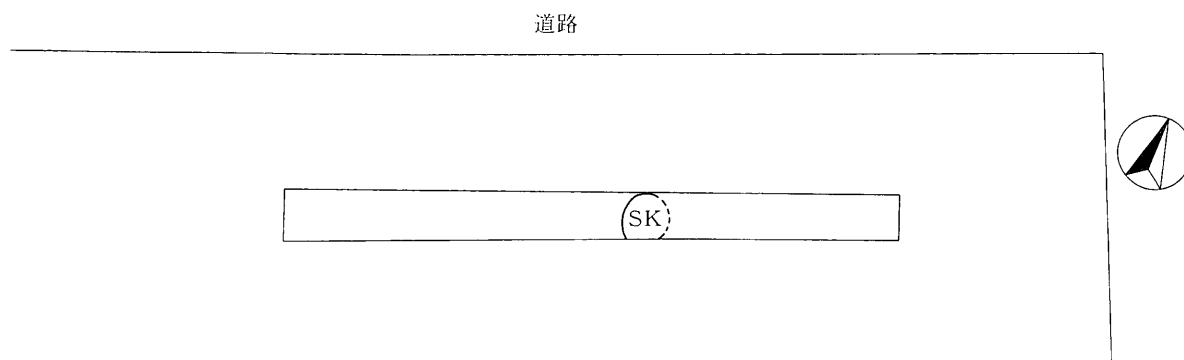


図3 箕瀬遺跡全体図 (1:100)



調査前



土層堆積状況



トレンチ全景

2 みさじろ 水城遺跡 (平成15年度調査)

1) 調査の概要

- | | |
|---------|-------------------------------|
| 1 調査地 | 飯田市松尾上溝3286-4 |
| 2 調査の要因 | 個人住宅建設 |
| 3 開発面積 | 80.67㎡ |
| 4 調査期間 | 平成15年12月11日 |
| 5 調査担当者 | 羽生俊郎 吉川 豊 |
| 6 遺構 | 住居址(古墳時代後期) 2軒 |
| 7 遺物 | 古墳時代土師器・須恵器片
平安時代土師器・灰釉陶器片 |

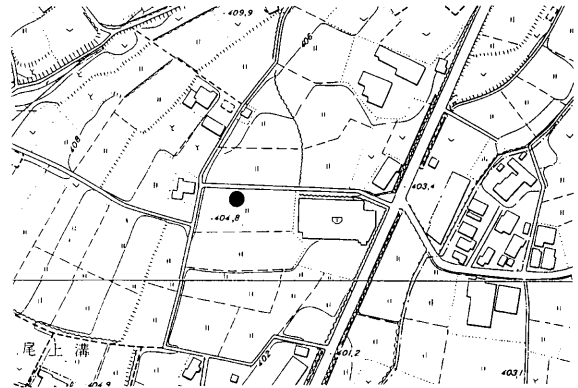


図4 水城遺跡調査位置

2) 遺跡の立地

松尾地区は、市街地からは南東に約6km離れている。当該遺跡は微高地と湿地が縞状に繰り返す低位段丘上に立地している。周辺には水城獅子塚古墳・上溝古墳群・妙前古墳群などや、縄文～平安時代に亘る大集落が確認された妙前遺跡等が分布している。

3) 経 過

平成15年10月28日付で飯田市松尾新井6252-2 藤本勝彦より土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は水城遺跡内での個人住宅建設であり、周辺の状況から何らかの遺構が存在する可能性が高いため、古墳の周溝が存在する場合、これを破壊するおそれがあるため、工事に先立ち試掘調査を実施し、試掘結果に基づいて改めて協議を行うこととした。

12月11日より重機を用いて検出面まで掘削を行い、遺構・遺物の確認を行った。遺構および調査地点の測量はM2クリエーションに委託実施した。同日中に埋め戻しを実施し、現地作業は終了した。

4) 調査の所見

幅1m程度のトレンチを設定し調査を行った。耕作土70cm・灰褐色土約50cmで検出面の黄褐色砂土層に達する。調査区内からは古墳時代後期と推定される住居址が2軒確認され、周辺の調査状況とあわせると、多時期に亘る集落が広範囲に分布することが確認された。出土遺物は古墳時代と推定される土師器・須恵器片や平安時代の灰釉陶器片が出土しているものの、細片のみで図示しなかった。なお、当該工事は調査結果から再協議を行い、表層改良の深度を地表面から100cm以内と設計変更したため、遺構が破壊される可能性が無くなり、本調査は実施しなかった。



図5 水城遺跡全体図
(1 : 100)

上段：調査前

中段：トレンチ全景

下段：重機による掘削

3 いしはら 石原古墳 (平成16年度調査)

1) 調査の概要

- | | |
|---------|--|
| 1 調査地 | 飯田市龍江3384- 4 |
| 2 調査の要因 | 個人住宅建設 |
| 3 開発面積 | 327㎡ |
| 4 調査期間 | 平成16年7月2日 |
| 5 調査担当者 | 馬場保之 下平博行 |
| 6 遺構 | 住居址 (時期不明) 1軒
暗渠 (近代) 1条
柱穴 (時期不明) |
| 7 遺物 | 縄文時代土器片・近代磁器片 |



図6 石原古墳調査位置

2) 遺跡の立地

龍江地区は、天竜川の東岸に位置し、市街地からは南東に約7km離れている。当該遺跡の東側に所在する城山の支陵が御庵沢川により開析され小段丘を形成しており、その段丘端部に立地している。

3) 経過

平成16年5月21日付で飯田市大瀬木1971- 1 三尋石市営住宅B棟505 市瀬賢二より土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は龍江石原古墳隣接地での個人住宅建設であり、古墳の周溝が存在する場合、これを破壊するおそれがあるため、工事に先立ち試掘調査を実施し、試掘結果に基づいて改めて協議を行うこととした。

7月2日より重機を用いて検出面まで掘削を行い、遺構・遺物の確認を行った。遺構および調査地点の測量はM2クリエーションに委託実施した。同日中に埋め戻しを実施し、現地作業は終了した。

4) 調査の所見

墳丘脇から幅1m程度のトレンチを2箇所設定し調査を行った。耕作土40cmで検出面のローム層に達する。石原古墳の周溝は確認されなかったが、床面のみであるものの住居址が確認されたことは、周辺に集落が存在する可能性を示している。この住居址は、床面の状況や形状から弥生時代後期である可能性がある。

遺物はトレンチ内から近代陶磁器片や縄文時代中期の土器片が出土しているものの、細片のみで詳細は不明である。

調査箇所全面にわたり耕作による攪乱がみられる点や、地境部分には30cm程度の段差が存在することから、当該地周辺が既に部分的に造成されていると考えられる。なお、基礎工事が遺構検出面に及ばないため本調査は実施しなかった。

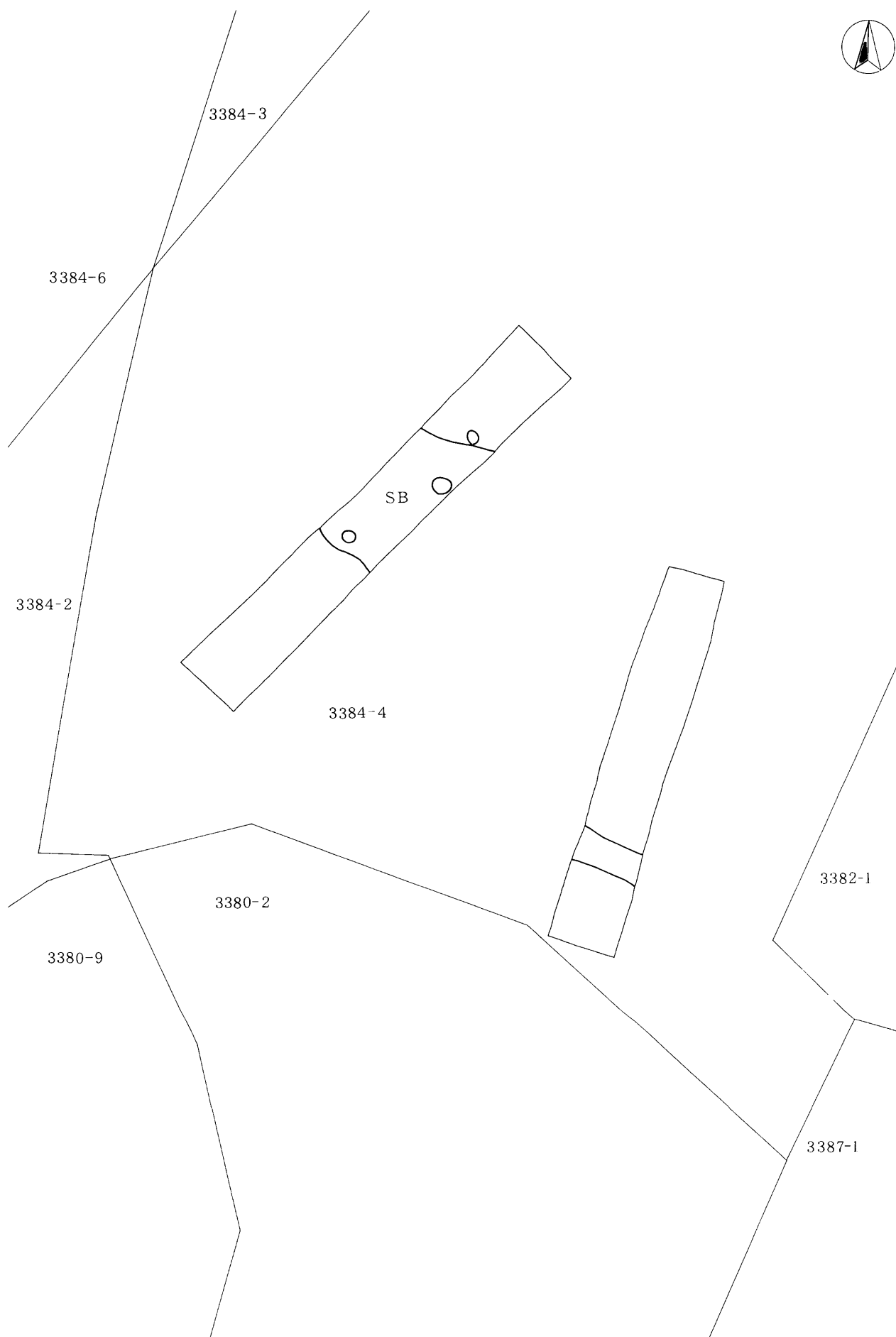


図7 石原古墳全体図 (1 : 100)

調査前



トレンチ1全景



トレンチ2全景



かいぜん じ けい だい 4 開善寺境内遺跡 (平成16年度調査)

1) 調査の概要

- | | |
|---------|--|
| 1 調査地 | 飯田市上川路990-1外 |
| 2 調査の要因 | 個人住宅建設 |
| 3 開発面積 | 542.39㎡ |
| 4 調査期間 | 平成16年8月27日～31日 |
| 5 調査担当者 | 馬場保之 |
| 6 遺構 | 住居址 (古墳時代) 6軒
土坑 (古墳時代) 3基
土葬墓 (近代) 1基 |
| 7 遺物 | 縄文時代土器片・石器
古墳時代土師器・須恵器片
近世陶磁器片 |

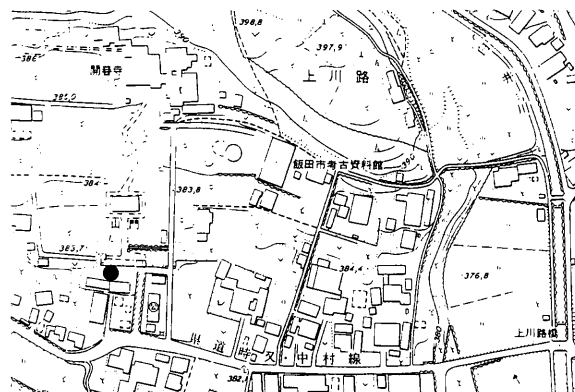


図8 開善寺境内遺跡調査位置

2) 遺跡の環境

上川路地区は飯田市街地の南約8kmに位置する。当該遺跡は低位段丘面Ⅱ（下伊那地質誌編集委員会1976）に対比される沖積段丘上に立地し、南には久米川が東流して天竜川と合流する。

3) 経過

平成16年8月23日付で飯田市上川路990-1 塩沢勝美より土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は開善寺境内遺跡内での個人住宅建設であるものの、鉄骨造のため基礎掘削が深く、遺跡を破壊するおそれがあるため、工事に先立ち試掘調査を実施し、遺構が確認された場合、工事で破壊される部分について発掘調査を実施することとした。

8月27日より重機を用いて試掘調査を開始したが、住居址等が確認されたため、破壊が及ぶ箇所について発掘調査を実施した。作業員を入れて遺構の検出・調査を行い遺構および調査地点の測量はM2クリエーションに委託実施した。その後8月31日に現地での作業を終了した。

4) 調査の所見

基礎部分のみのトレンチ調査であるものの、古墳時代中期～後期の集落の一画が把握された。しかし調査範囲の関係から、住居址の壁や床など一部分が検出されたに過ぎない。また、遺物も小破片が多く図示しうるものはなく、詳細は不明である。こうした状況であるものの、今次調査で確認された集落は、近接する長野県史跡馬背塚古墳・御猿堂古墳等の造営に関わった集落の可能性が考えられる。一方、上川路廃寺に近接するものの、古代寺院に関連する遺構・遺物は確認されず、東側で確認されている縄文時代中期の集落も今次調査地点までは広がらないことも確認された。



図9 開善寺境内遺跡全体図 (1:100)



左上：トレンチ全景(1)
右上：トレンチ全景(2)
右下：調査風景

やぶのこし 5 藪越遺跡 (平成16年度調査)

1) 調査の概要

1 調査地	飯田市上郷飯沼3401
2 調査の要因	個人住宅建設
3 開発面積	362.83㎡
4 調査期間	平成16年10月28日
5 調査担当者	馬場保之
6 遺構	なし
7 遺物	なし

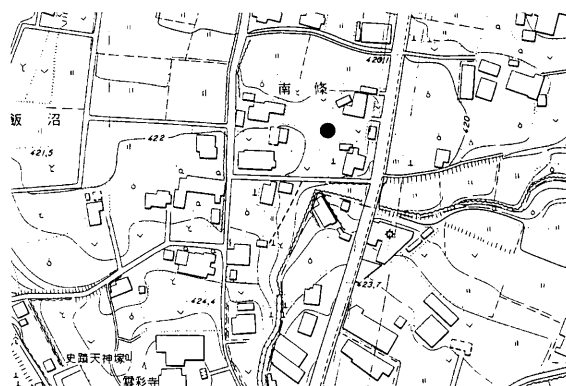


図10 藪越遺跡調査位置

2) 遺跡の環境

上郷地区は、市街地から北東2kmに位置する。遺跡は低位段丘Ⅱの別府面に所在し、南側は比高差4～8mを測る栗沢川の侵食谷で、北側は旧河道と推定される浅い侵食谷が存在し、これらに囲まれた東西に細長い舌状台地状の微高地の基部付近に立地している。

3) 経過

平成16年10月5日付で飯田市上郷飯沼3401 丸山 茂より土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は藪越遺跡内での個人住宅建設である。計画地東側では、店舗建設に先立ち3次にわたる調査が行われており、縄文時代から中世にかけての集落が確認されている。

このため計画地周辺にも遺構が存在すると予想され、工事に先立ち確認調査を実施し、遺構等の状況を確認することとなった。

10月28日、重機を用いて検出面まで掘削を行い、遺構・遺物の確認を行った。調査地点の測量は(株)ジャステックに委託実施した。遺構等確認されず、同日中に埋め戻しを実施し、現地作業は終了した。

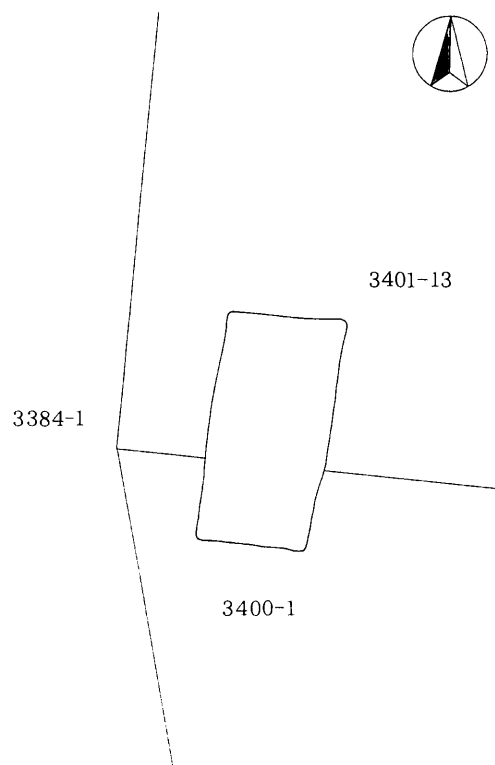
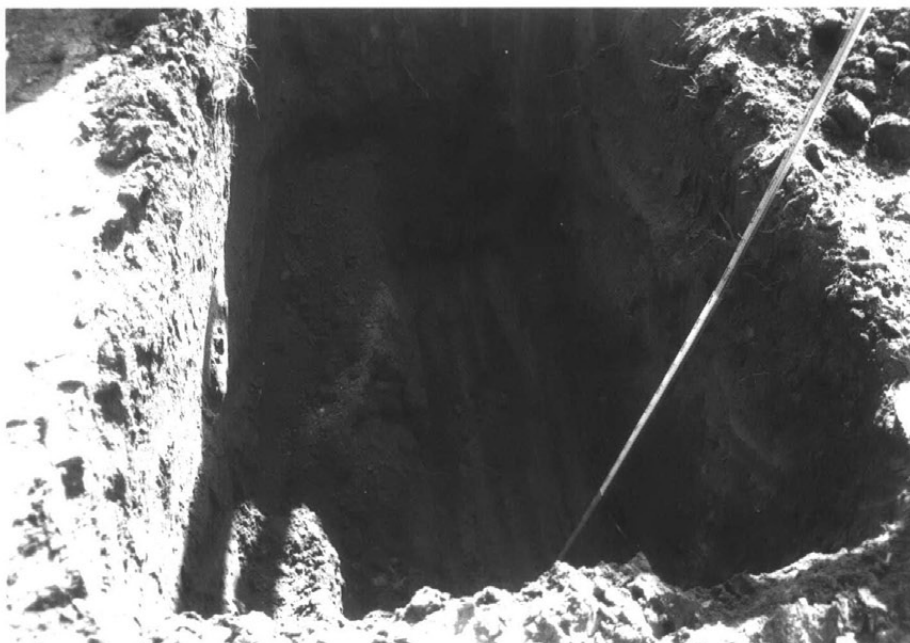


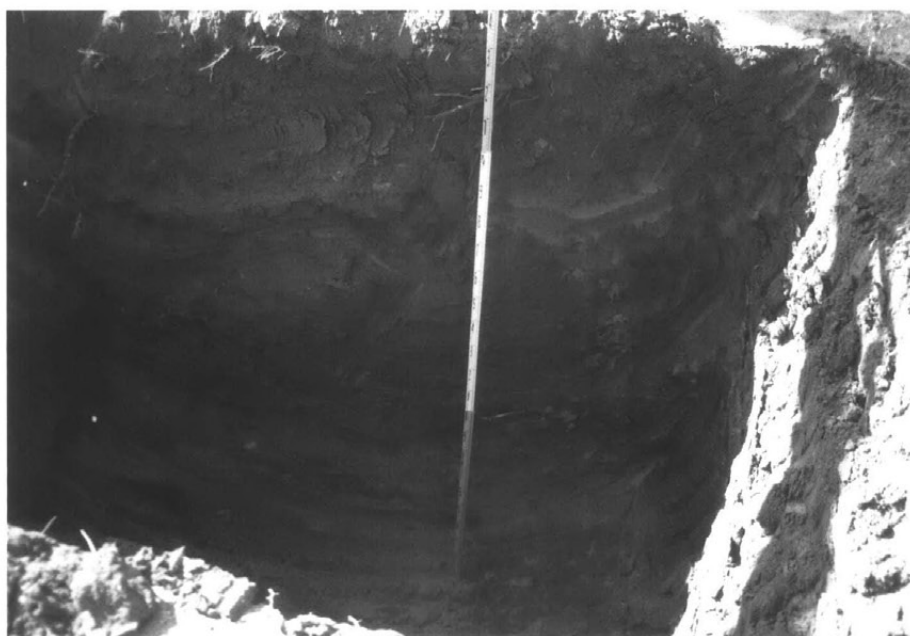
図11 藪越遺跡全体図 (1:100)

4) 調査の所見

耕作土等80cmで遺構検出面である砂・ローム混じりの黄色土層に達する。トレンチ内からは遺構・遺物が確認されず、東側で確認されている集落が、計画地周辺までは広がらない可能性がある。



トレンチ全景



土層堆積状況



重機による掘削

とみ たいら 6 富の平遺跡 (平成16年度調査)

1) 調査の概要

- | | |
|---------|---|
| 1 調査地 | 飯田市大瀬木1700外 |
| 2 調査の要因 | 簡易圃場整備 |
| 3 開発面積 | 888m ² |
| 4 調査期間 | 平成16年11月8日～16日 |
| 5 調査担当者 | 坂井勇雄 下平博行 |
| 6 遺構 | 住居址(弥生時代後期) 1軒
建物址(中世) 1棟
土墳墓(近世墓) 3基
溝址(時期不明) 1条
柱穴(中世) 多数 |
| 7 遺物 | 縄文時代土器片
弥生時代土器片 |

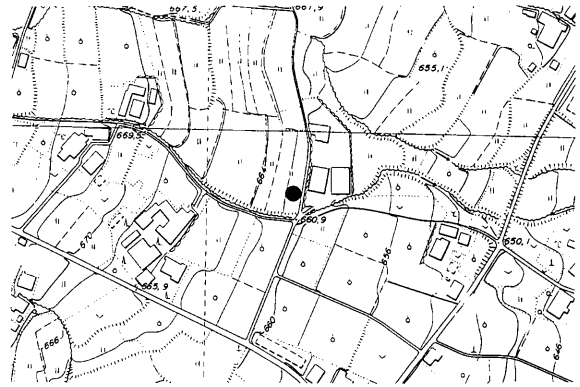


図12 富の平遺跡位置図

2) 遺跡の環境

大瀬木地籍は、飯田市街地の南西約5kmに位置する。遺跡の北西側にある笠松山(標高1,271m)の支陵から連続する微高地の北東緩斜面上に位置し、北側には臼井川が、南側には茂都計川が東流する。

3) 経過

平成16年8月23日付けで飯田市大瀬木2823 木下千秋より土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は簡易圃場整備であり、平成5年度に調査を実施した箇所隣接する。平成5年度調査地点と今次整備箇所との境から縄文時代の住居址および中世の掘立柱建物址が確認されているため、遺構検出面に削平が及ぶ西側水田についてのみ発掘調査を実施することとなった。

11月8日重機による表土剥ぎを行い、9・10日作業員を入れての調査を実施した。その後遺構写真等の記録を行った後、調査地点の測量をM2クリエーションに委託実施し、11月16日、重機による埋め戻し作業を行い現地での作業を終了した。

4) 調査の所見

耕作土60cm、ローム漸移層30cmで検出面のローム層に達する。平成5年調査と同様に中世の建物址が検出され、当該期の集落が南へ広がることが確認された。また、弥生時代後期の住居址は前回の調査と合わせ3軒確認されているが、住居址が一定距離はなれて疎に分布する状況は他の中位段丘以上で確認されている集落と同様な傾向にあると確認された。遺物は縄文時代中期初頭及び弥生時代後期の土器細片が少量出土しているが、図化しうるものはない。

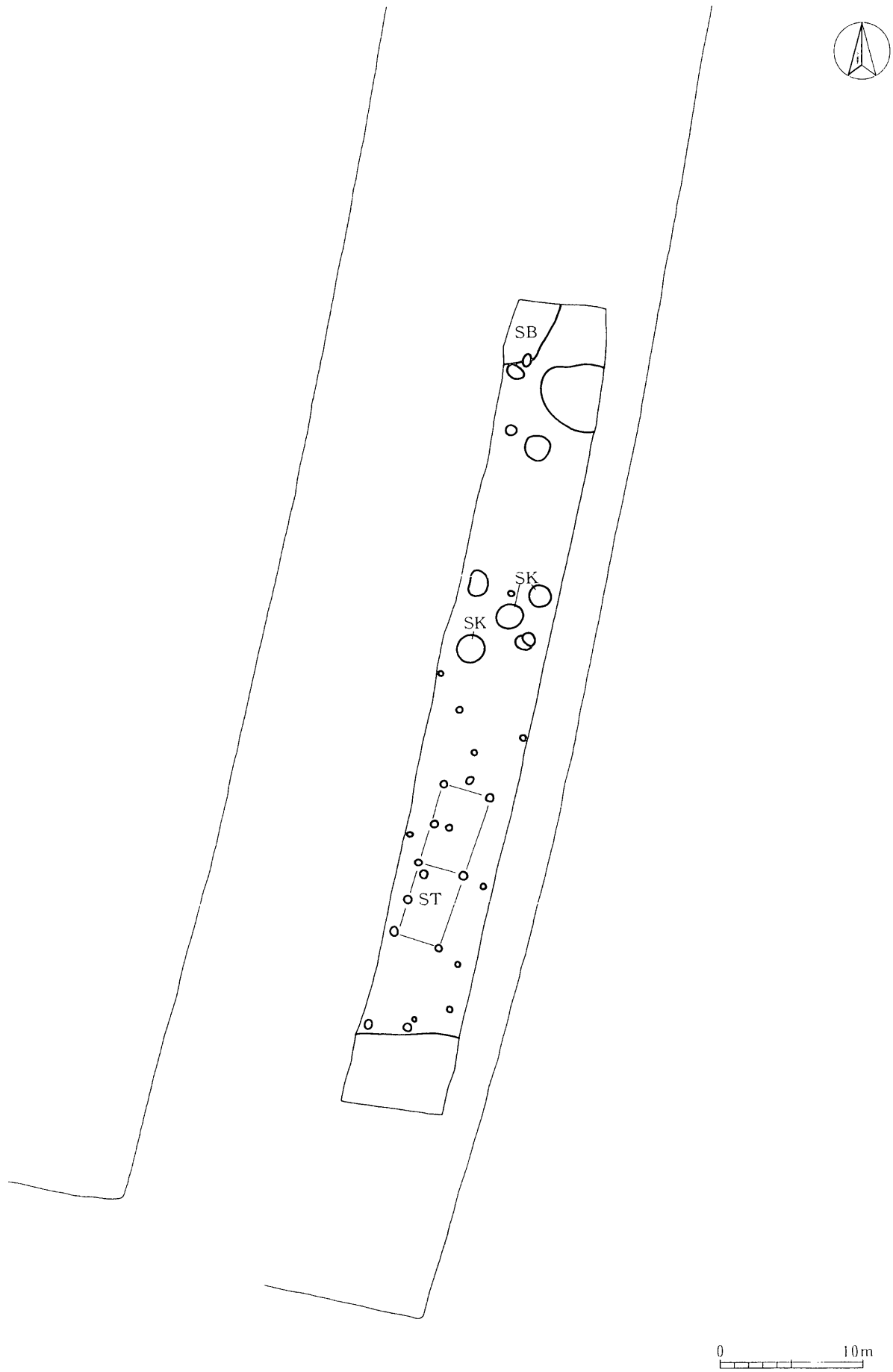


図13 富の平遺跡全体図 (1 : 100)

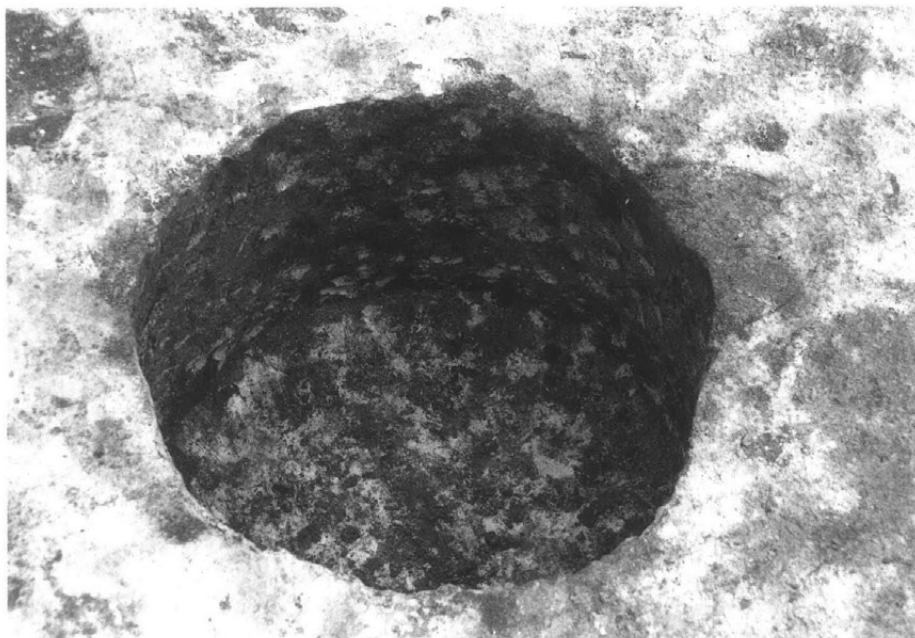


左上：調査区全景（南から）

右上：調査区全景（北から）

右下：堀立柱建物址





近世土壙墓



重機による掘削



調査風景

報告書抄録

ふりがな					
書名	平成15・16年度市内緊急発掘調査報告書				
副書名					
巻次					
シリーズ名					
編著者名	下平博行				
編集機関	長野県飯田市教育委員会				
所在地	〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534番地 TEL.0265-22-4511				
発行年月日	西暦2005年3月				
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村遺跡番号	調査期間	開発面積	調査原因
みのぜいせき 箕瀬遺跡	いいたしみのぜ 飯田市箕瀬	20205	平成15年7月23日	108㎡	個人住宅建設
みさじろいせき 水城遺跡	いいたしまつおあげみぞ 飯田市松尾上溝		平成15年12月11日	80.67㎡	個人住宅建設
いしはらこふん 石原古墳	いいたしたつえ 飯田市龍江		平成16年7月2日	327㎡	個人住宅建設
かいぜんじけいだいせき 開善寺境内遺跡	いいたしかみかわじ 飯田市上川路		平成16年8月27日～31日	542.39㎡	個人住宅建設
やぶのこしいせき 藪越遺跡	いいたしかみさと 飯田市上郷		平成16年10月28日	362.83㎡	個人住宅建設
とみたいらいせき 富の平遺跡	いいたしおおせぎ 飯田市大瀬木		平成16年11月18日～16日	888㎡	簡易圃場整備
所収遺跡名	種別	時代	検出遺構(時代)	出土遺物	
箕瀬遺跡	集落址	縄文～平安時代	土坑1基(時代不明)	なし	
水城遺跡	集落址	古墳～平安時代	住居址2軒(古墳時代)	須恵器・土師器・灰釉陶器	
石原古墳	古墳・集落址	縄文～古墳時代	住居址1軒(弥生時代?)	縄文土器・近世陶磁器	
開善寺境内遺跡	集落址	縄文～古墳時代	住居址6軒(古墳時代) 土坑3基(古墳時代) 土葬墓1基(近代)	縄文土器・須恵器 土師器・近世陶磁器	
藪越遺跡	集落址	縄文～中世	なし	なし	
富の平遺跡	集落址	縄文～中世	住居址1軒(弥生時代) 掘立柱建物址(中世) 土墳墓(近世?) 溝址(時期不明)	縄文土器・弥生土器	

市内緊急発掘調査報告書

2005年3月 発行

編集・発行 長野県飯田市上郷飯沼3145番地

長野県飯田市教育委員会

印刷 飯田共同印刷株式会社
